

第2回 正副部長会議 議事要旨

日時:令和7年2月21日(木)

午前10時00分から

場所:3階 庁議室

1. 開会

○事務局あいさつ

2. 議事

(1) 庁内会議及び審議会各部会における意見収集について(報告)

(2) 基本構想(案)について(ディスカッション)

→事務局より資料1、2、3-1、3-2に基づき基本構想(案)、基本構想(案)への意見について説明。

<質疑>

嶋田副会長:どなたからでも意見いただきたい。あるか。

安部委員:意見徴収について、理解した。部会の際に、右半分について意見を忘れていた。「ターニングポイント」という言葉について、子育て世帯の転入増加があるということでこのネーミングをしていると思うが、次の10年を考えると、10年後も子育て世代に選んでもらえるかわからない。「子育て世代から大きな支持」とかの方が実態に合っているのではないか。「子育て世代に指示されるまち」の方が良いと思う。空き家の循環について、変化のサインということで、そのことばを使っても良いが、サインよりも「兆し」の方が良いと思う。カタカナ表記だと意味が限定される。こだわらないが検討してほしい。「道のそばでにぎわっているのは?道の駅」で、人気ランキング大阪1位、ということだが他では「大阪府」とか書いている。定義は同じ方がよい。「府内1位」「大阪府1位」などの表記にした方がよい。また、千年の都市、は千年のまち、という風にしてくれたがそれは良い。「都市」という言葉は明治時代からの言葉であり、中世にはなかった。また、「新しい一歩、踏み出し放題。」の部分で、部会の際にも意見を上げたが、「放題」というのは残すのか。キャッチコピーはなるべく好感度が高い言葉がいい。特定のイメージではなく、あらかた7~8割の人が同じイメージができる言葉がよい。放題、というと飲み放題などのイメージがある。「新しい一歩を踏み出せる」とかの工夫がいるのでは。「サクセスフルなサステナブル」は怪しい言葉ではないか。サクセスフルを名詞系にした方がよいのではないか。

市事務局:ターニングポイントについて、前段は「今」の河内長野の状況・魅力を伝えている。10年後にどうなるというよりは、今の河内長野の状況をポジティブにと

らえてもらうため、この表現にしている。まちの衰退が進んでいる、というネガティブなイメージを持つ市民に対し、転入の兆しがあり、今までとは違う変化が見えてきていると示している。今までのネガティブな感覚から、今後の 10 年がものすごく重要と示す上で、ターニングポイントということは市として市民に伝えていきたい。空き家の循環について、「兆し」「サイン」にするか先生方の意見を聞きたい。「大阪 1 位」については他と表記を合わせてよい。「千年都市」については、都市というのは中心的なまち、おおきなまち、の意味を示すのが大半なので、「千年のまち」という表記にすることを検討している。「踏み出し放題」「サクセスフルなサステナブル」もそうだが、どこまで市が目指していくのかをどこまで表現するのか。このようなキャッチコピーについては、キャッチーさやインパクトが必要なところもある。全体的にとろどころインパクトに強弱をつけている。全体の中でインパクトを付けることも必要ということで「放題」という表現をつかっている。「サクセスフルなサステナブル」という表現についても、文法的には成り立っていないが、コピーライターに作ってもらった言葉。ここについても先生の意見を聞きたい。

中道委員：部会資料を何も知らない人に見てもらった、という話があった。それが大事だと思う。何も知らない人が見てわからなかったら意味がない。言葉遊びも大事だが、「わかりやすい」「伝わりやすい」言葉を使うことが大事。全く知らない方の視点も頭に入れながら、確認する必要がある。作ったものがわけがわからない、ということにならないようにしてほしい。

嶋田副会長：何度も話を聞いているので「そうかな」という気になっている。何も知らない人に見せて、意味がわかるようにしなければいけない。

松端委員：知っている人が、型を崩しているのを見ると「面白い」だが、何も知らない人が見るとわからない。

江川委員：最初にこどもたちとかの意見徴収をしているが、もう一度若い人たちに見てもらう、などしてもいいのではないかな。最初に見たときに、事務局に伝えたが、「河内長野のまちづくりは今どうなっているのか」に対して「ターニングポイント」という回答に違和感があった。内容も人口のことであり、まちづくりのことではない。例えば人口でいうと、こうなっている、ということである。ターニングポイントではなく、「いいかんじ」とか。人口はあくまで数字で見ると変わってきているが、たまたまではなく、取り組んできたことの成果だと思う。今の表記だとそれは読み取れない。皆さんはどのように思うか。

嶋田副会長：QA が整合していない。まちづくり、と、ターニングポイント、というのは整合性がとれていない。今までの行政の対応でこうなっていると思う。改善している、ということも見えるようになってほしい。

中道委員：最初の QA で読み手をキャッチしないと後半は見てもらえない。大事にしてほ

しい。今下がってきたものを上げてきた、というのが見えるように「ターニングポイント」と言ってくれてと思うが、市民がもっと上がってきているという流れがわかるようなキーワードとなっていてほしい。最初の QA についてはこだわって書いてほしい。

三村委員：基本的に全部気に入っている。全体の議論もあったが、今は「希望」を表現しているので、大ほら吹きでもいいのではないか。「都市を目指すんだ。」というインパクトを持って「都市」にしても良いと思う。言い過ぎてもいいのではないか。謙虚にやっても、謙虚な人には誰もついてこない。大ほらを吹いて、そのほらが一つでも成功すればすごいという感じになる。ここに描かれているのはほらを吹いているところもあると思う。意気込みを出せばよい。自分のまわりも「河内長野がダメだ」という人が多い。自信、肯定感を市民に持ってもらうきっかけになってくれればよい。総合計画を作る当初は、最初はこうなるとは思っていなかった。これをどう変えるか、ではなく、市民にどう理解してもらうかを考えた方が建設的ではないか。これをもとに具体的な計画がある。この言葉を実行するためにどのような施策があるか、と考えるのが大事ではないか。言葉の選びは大事なので議論は出来ればよい。

松端委員：ターニングポイント、を活かすのであればまちはいまどうなっているの？ターニングポイント、なら自然。

三村委員：実は増えている、というのを言いたいのだと思う。

中道委員：実は、というのが大事。「成果アゲアゲ」など、短い言葉で「何の成果？」と思わせた方がいいのではないか。

安部委員：全体が軽いタッチであれば異論はない。そういうノリなら軽い言葉で問題ないと思う。

嘉名会長：ターニングポイントについて、ターニングポイントにあるとはわかるが、ここで言うべきことは、人口がどうこうということを追わない、ということではないか。それぞれのアクティビティが高まっているとかの方が良いと思う。転入が増えた、とかも言ってもいいが、それだと価値観が変わらないままになってしまう。千年都市という言葉についても、今までにないまちを目指す、今までにない価値観を目指す、ということにすればよい。また、サステナブルについて、SDGs の目標は 2030 年であり、今回の総合計画の期間では達成されていて当然のことである。都市と SDGs とかいろいろな言い方をするが、「サステナブル」は、世の中に浸透していることと事務局が言いたいことがずれている。新しい価値観というのを打ち出す上で、別の言葉を使った方がよい。「押し」は、10 年後に陳腐化している恐れがあるなら使わない方がよい。全体的にはまとまっているが、俯瞰的にみている言葉が多い。むしろ、ウェルビーイングなど、それぞれが幸せを目指すという言葉が入っていた方がよい。皆さんがそれぞれ楽しんでいる、という

ワードはあるが、もう少しウェルビーイングというような表現があってもよいと思う。

市事務局：方向性について、「サクセスフルなサステナブル」について、違う言葉に変えていくのか、今日まとめてほしい。ターニングポイントの方向性についても、入口としていただければ検討しやすい。サクセスフルなサステナブルは、意見が多い。ただ、持続可能性は市として重視している。自治体運営や、高齢化に伴う継続性が課題になっていたり、社会インフラや、市財政など、そういう答えを見つけないというのがこれからは大事。そういう分野を一つ入れた。違う表現を考えてもいいかとも思う。思いはお伝えしたい。

嶋田副会長：役所にいると「サステナビリティ」は大事。SDG s はとても広いが、人口問題、社会資本の問題、そういった持続可能性は非常に重要。案に入っていてやっぱり、とは思った。言葉としての座りは議論の余地があるが、内容としては非常に重要な観点である。

市事務局：ターニングポイント、という言葉にはこだわっていない。人口を維持する、増やす、というのは事務局としても違うと思っている。減ることもやむなしだと思うが、市民としては受け入れがたいと思う。少しずつ、減る中身が変わってほしいと思う。年齢的な人口バランスも、今後高齢者の数も減っていく。子育て世代は維持できたりしてバランスが整っていくというところ。今までの人口の減り方が「消滅可能性自治体」など強烈な印象が市民に根付いてしまっている。市民には、今後の人口構造の変化を伝えることが大事だと思う。ネガティブなところを抜いてワークショップをすると、良い雰囲気になった。今までとは河内長野の状況がかわってきている、というメッセージを最初に植え付けたい。それが「ターニングポイント」という言葉なのか。

江川委員：持続的な、というのは大きなテーマ。これだけ見ると人口が増えると誤解されがち。偏っていた構成が適正な方向に向かっていると読み取れない。その雰囲気をうまく伝えてもらうために。「ターニングポイント？なんのこっちゃ？」となって説明を見るのでもいいと思う。解説でもう少し丁寧に伝えてもらえればよい。偏った構成が悪いところだったのが、河内長野では変化しているというのを伝えるのが大事

市事務局：人口が減ることが悪いのではなくて、バランスが良くなる。

嘉名会長：人が増えたというよりも若い人が増えたことが重要。今までの枠組みが変わっていると書いた方がよい。サクセスフルなサステナブルは事務局の思いがありそう。河内長野が目指すオリジナリティを示す必要がある。そうでないと、サステナブルという言葉は既に流通している言葉なので、その意味と市の目指す意味との乖離を説明した方がよい。

安部委員：出されたものに対して、斬新さもさることながら、多くの人が思っているもの

と乖離してしまうとまずい。方向性や斬新性を、理解させながら示すことが大事。サクセスなサステナブルは、意味が伝わりづらい。「いつまでも続くわたしたちのまち」だとマズいのか。これから人口が減っていったら、水道管の維持をどうするのか、とか昔の橋梁をどうするのか。ハード的なサステナビリティなど、そういうのを込めるとそういう言葉で表せるのではないか。

嶋田副会長：ターニングポイントという言葉で新しい循環というのが伝わるのか。今は文字だけだが、今後イラスト、QRなどを加えれば、違う印象になると思う。最終的な仕上がりは楽しみにしている。

市事務局：「推し」について、10年後に言葉が使われているのか。今一瞬の流行りの言葉なので、「お気に入り」というイメージなので、修正を検討している。

嶋田副会長：導入メッセージのところが、千年都市とこれからの10年、というのは「と」というのがきになる。千年都市という場所と時間がつながっているのはどうなのか、と思っていた。「千年都市の今とこれからの10年」とかの方がよいのではないか。

安部委員：千年の歴史とこれからの10年、とかにした方がよいのではないか。

市事務局：ここの意味としては、高野詣からきらびやかではないが、人と人との活動、歴史をつくってきたまちが今こうなっている。そういうまちがこれからの10年どこを目指すか、というところがある。コピーライターは違和感をわざと出しているのだと思う。

江川委員：総合計画は10年だが我々は10年後を目指しているわけでもない。この「10年」という言葉は本当にいるのか。

嘉名会長：これから、くらいでいいのではないか。

市事務局：10年後ではなく、その先を考えているものなので「これから」でもいいと思う。

嘉名会長：基本計画は10年だが、基本構想は10年を気にしなくて良いのではないか。

市事務局：言葉はコピーライターと相談する。普通な文章だと頭に残らない。サクセスなサステナブルは、今職員の頭には一番残っていると思う。頭に残る、というのはちょっと違和感があったり、キャッチーな言葉だったり。コピーライターと相談する。

嶋田副会長：外の人から見た観点は必要だと思う。外向けにどのように打っていくのか、ということでダイジェスト版だったり、河内長野の良さがぱっと伝わる仕掛けがあれば良いと思う。外の人に響かせるような

中道委員：河内長野の魅力を中、外両方に伝えていくことが大事。富田林は雪が降らず、河内長野はある。雪はこどもにとっては経験だ、など、そういうことに気づくような仕掛けがあればよいと思う。こどもたちが教材で使えたり、若い世代に伝わっていくのがよいと思う。みんなが読める概要版があったらよい。

市事務局：市民の目線は必要だと思う。バズコメの仕方は工夫してみようと思う。市民が

見たときにどのように受けるのかは考えればよいと思う

江川委員：リクリッドなどを使ってみてもよいのではないか。聞くだけでもよいと思う。

市事務局：パブコメから議案として挙げるまでの期間が短い。市民がこれを見たときにどう感じるのかの感覚は、取り入れられるよう考えたい。

嶋田副会長：どういう人向けに見せるのかも大事。若い人に見せるのか。

市事務局：庁内でも、高齢者向けの言葉がないのではないかという声があった。書いていないわけではないのだが。言葉がないことに違和感を覚えるという意見があった。最終的に何を拾うのかは判断しなければいけない。市民の意見を聞いて、次の伝え方を工夫するところかもしれない。

嶋田副会長：もちろん高齢者施策には結びついている、と安心してほしい、というところだと思う

三村委員：都市を目指すという意気込みで書いてもいいのではないか。駅前を華やかにして都市を目指す、とか。

嘉名会長：千年都市、というのも造語である。都市でもまちでもよいと思う。まちというのはプレイヤーが少ないイメージがある。都市はいろいろな人が訪れる、流動性がある。今回の趣旨でいうと、交流人口、いろいろな人が来るという観点では面白いと思う。なぜ都市なのかと聞かれ、答えられればよいと思う。

三村委員：新たな都市像として、変化や交流などがある。

江川委員：説明できることが一番大事である。

三村委員：千年都市、とこれから、くらいが良いと思う

安部委員：過去の千年ではなくこれから都市を目指すということか。やや小規模は「府」「まち」ということばである。まち、という言葉は賑わいを持ったまちである。明治になって新しく都市という言葉が定義された。今後都市を目指すというのならよい。一番最初の言葉なので、現状を正確に理解するにはその方がよいと思う。

嘉名会長：おそらく千年という言葉には、高野街道の意味と、今後のサステナビリティもイメージしていると思う。歴史によって千年という言葉と、今後の千年という意味も含まれていると思う。次の千年を作っていくと最後に描かれているので、未来に続いていると思っている。

嶋田副会長：気持ちはよくわかる、表現としてこれでよいかは反芻する必要があると思う。

市事務局：いただいた意見で修正をかけ、先生方にお送りする。一度、意見をいただく時間を設けられればよいと思う。迅速に修正案を作成する。

3. 事務連絡

→市事務局より、事務連絡について説明

4. 閉会

嘉名会長：事務局の思いや部会長・副部会長の考え、関係部局の考えの共有ができてきたと思う。そういう意味では今後まとめられればよいものになると思う。大阪狭山市や富田林市でも作ってそう、と思われるのではなく、河内長野だからこそ、「他の都市にはこんなの作れない」と思わせるものになればよいと思う。